


5月4日 愛宕山・竜ヶ岳

平尾 繁和

山名	愛宕山・竜ヶ岳		山行名	個人山行	
ルート	清滝～表参道～愛宕神社下～分岐～サカサマ峠～竜の小屋～竜ヶ岳～分岐～月輪寺～分岐～清滝				
山行日	2021年5月4日(火)		天候	晴れ	
参加者	CL:平尾、SL:藤村、北條、秋山		女性2名、男性2名/4名		
ルート概略					
	コースタイム				
	地名	時:分	地名	時:分	
	清滝駐車場	発	竜ヶ岳	着	11:45
		7:40		発	12:15
	愛宕神社下	着	分岐	着	13:10
		9:50		発	13:10
	分岐	着	月輪寺	着	13:55
		9:58		発	13:55
	サカサマ峠	着	分岐	着	14:43
		10:35		発	14:45
	竜の小屋	着	清滝駐車場	着	15:10
		10:53		発	
		10:55			
<p>夏山トレーニングの下見と、秋の屋久島縦走に向けた長時間歩行を兼ねた山行。7時過ぎにはすでに駐車場には十数台の車があり多くの人が出た。(6:30～17:30、休日1200円)表参道を上る。山上ではボタンザクラとシャクナゲが咲いていた。神社には寄らず地蔵山の方へ向かう。サカサマ峠への分岐で樹林帯へ入る。すぐ先の分れを右に入り、その先の看板の所で右手の急坂を下っていく。イヌブナの新緑が眼にまぶしい。歩きやすい新緑の小径をくぐると首無し地蔵のあるサカサマ峠につく。かつてアイゼントレで月輪寺分岐からここへ来たことを懐かしく思い出した。左手へ沢に沿って竜の小屋へ向かう。スギ林のなかから見ると岸にクリンソウがあり2、3株咲いていて花はこれからのようだが、かつて群落があったと写真を見せてもらったのがこの辺りだろうか。数年前にはなくなっていたと聞いたが見られてよかった。竜の小屋から沢沿いを行き渡渉する。右手へ竜ヶ岳の急登にとりつく。岩稜の急傾斜が始まる。水平距離約270mを約250m登る。岩や木をつかみながら上をめざす。時折シャクナゲが咲いていて目を楽ませてもらった。コースタイム50分で竜ヶ岳山頂につく。山頂ではミツバツツジやアセビとツルシキミの白い花が咲いていた。昼食をとる。灌木が取り囲み眺望はよくないが、左に愛宕神社の森や京都市街、右手には地蔵山への稜線が見える。ここからはゆるいアップダウンの道が続く。両脇にアセビの群生があり赤い新芽がかわいいとの声。リョウブの新緑も美しくほんとに気持ちのいい山行。分岐にでるが地蔵山へは往復80分かかり予定外なのでやめた。みなさん愛宕山の三角点を知らないとのことで案内するつもりだったのに、標識だよりに歩いていたら入り口を見過ごしてしまった。次の機会にぜひ寄ってください。分岐から愛宕神社の方へ向かう。左手に京都市街と比叡山が少し霞んで見える。オオカメノキの白い花が満開の花盛り。帰路は月輪寺コースを下る。月輪寺の天然記念物というシャクナゲの花はすでに終わっていて残念だったが、秋の子宝モミジに期待したい。舗装路に降り予定より早く駐車場にもどった。天気に恵まれ無事下見ができ同行のみなさんに感謝です。</p> <p>ヤママップ記録 7時間31分、13.9km、累積標高差上り・下り1,358m</p>					
ヒヤリハット なし					



サカサマ峠への分岐



新緑の小径



サカサマ峠 (首無し地蔵)



竜ヶ岳への急登



クリンソウ



ジャクナゲ



竜ヶ岳山頂 (921m)



新緑 ブナ



オオカメノキ 満開





京都市街



比叡山を望む



月輪寺

○前日にメールを見て無理やり参加させていただきました。

藤村様、平尾様、北条様、ご迷惑をおかけしました

藤村さんに屋久島のトレーニングなのでコースタイムより早く行くようにしようとの提案。お天気には恵まれましたが愛宕表参道の前半はやはりきつかったです。後半から周りを見回す余裕がでてきて、神社を迂回し、さかさま峠、竜の小屋あたりは新緑でさわやかな風にやっぱり山はいいなあとうれしくなります。大亀の木の白い花がとても目立っております。その後、竜ヶ岳から下山、月輪寺あたりからきつくなり、舗装路に降り立つときにはもうくたくたでした。でも、コースタイムより少し早く到達できたそうので、藤村さんから屋久島へのお墨付きをいただけて北条さんと喜び合いました。

秋山 正子

○4月以降コロナ禍が収束するよう祈っていましたが、陽性者数が日に日に増え緊急事態宣言が延期される報道もありモヤモヤしているときに平尾さんが愛宕山に単独で登ることを知りました。単独行はよくないと思い何人か声かけをして同行させていただきました。コロナ禍など忘れるような五月晴れで、新緑が眩しい愛宕山の奥座敷を気持ちよく縦走しスカット爽やかになりました。特に竜ヶ岳の急斜面の登りは痩せ岩尾根で北アルプスの岩山登りを彷彿させる場所で、久しぶりに手ごたえを感じました。

藤村 敏幸